

■■■演壇にて■■■【残り25分】

皆様、こんにちは。三度のメシより佐渡が好き!!! 政風会代表の室岡啓史でございます。質問の機会をいただきましたことに心より感謝申し上げます。アフターコロナにおいて、まずは気持ちから「前向きの島づくり」を念頭に置き通告に従い、代表質問を致します。

はじめに、1月1日発災の能登半島地震においてお亡くなりになられた皆様に心よりお悔やみ申し上げます。また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。元日から行政職員、関係者の皆様には、それぞれの役割を発揮していただきありがとうございました。元日という一年で最もおめでたい日の夕刻に発生した地震は、物心両面にあまりにもショックが大きい出来事だと感じております。防災減災意識の醸成に全力で取り組む必要性を再認識したところであり、自分にできることを精一杯がんばりたいと思っております。被災地の一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

震災による幕開けとなってしまった本年ですが、「離島創生」「佐渡創生」元年として、辰年だけに佐渡が龍のごとく大空へと舞い上がる一年になると期待しております。市長の名前にも「竜」が「五」つも入っていますね。まず、去る3月1日には、佐渡市市制施行20周年の褒賞授与式及び受賞祝賀会が開催されました。佐渡市名誉市民となられた宮田亮平様、並びに受賞者の皆様におかれましては心よりお慶び申し上げます。20周年について、自治体を人に例えるのであれば、佐渡さんの成人式（二十歳のつどい）ということになります。本年を「佐渡創生」元年と位置付け、大人として成熟した佐渡市政の運営が期待されるところであります。今年は春夏秋冬でも大きな出来事が目白押しとなる予定です。

春：4月に佐渡市長・佐渡市議会議員選挙が行われ、佐渡市の最高責任者と市民の代表21名が決定します。

夏：7月末にインドのニューデリーで世界遺産委員会が開かれ、「佐渡島（さど）の金山」が世界文化遺産に登録される見込みであります。足掛け28年に渡る努力が報われ登録が実現すれば、新潟県では初の快挙となります。

秋：小木町が重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）登録認定の見込みで、実現すれば新潟県では宿根木が登録された平成3年以来、33年ぶり2件目の快挙となります。

冬：トキエアの佐渡空港就航、佐渡⇄新潟、佐渡⇄首都圏便の開設により、国内外からワンクッションで佐渡へとお越しいただくことが可能となり、佐渡空港周辺地域は玄関口としての活性化が大いに期待されるところであります。

4月に改選を控え、第6期目を迎える佐渡市議会における任期内の4年間において、有人国境離島法の改正・延長・予算の拡充が期待されるところです。人口の自然減・社会減・地域の過疎化への対策は、佐渡市単独で成し得ることは不可能です。よって、国や新潟県、民間企業や教育機関等との連携は当然のこと、離島振興法の対象256島、特定有人国境離島特別措置法の対象71島との連携により国や県に対して要望を行い、先進的な政策を本土に先駆けて実行することで、一つひとつ課題を解決していくべきと考えます。今こそ、離島で連携して「離島創生」を推進すべきです。そして、豊かな自然や歴史・文化など多くの魅力を有する本市の目指す、持続可能な島となるよう強く期待しているところです。

令和6年度の施政方針と教育行政方針を音読させていただきましたが、大分仕上がっているなど大変頼もしく思うところであります。どうか、「絵に描いた餅」に終わることのなきよう、費用対効果を常に考えながら、より良い事業実施に努めていただきたいと思います。

佐渡の農山漁村の生業と文化を大切にし、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とながらっていく世界観、「佐渡ヶ島（SDGs）集落ツーリズム構想」の実現にむけて質問致します。

(1) 防災減災【残り21分】

① 震災、雪害を教訓とするハード／ソフト両面の防災減災対策についてお尋ねします。「備えあれば憂いなし」の通り、避難の想定や非常食の確保をしておくことが重要であります。そこで、各世帯に対して防災リュックの無償配布もしくは購入費補助制度の創設をするべきではないかと考えます。また、水や非常食の備蓄はどうなっているのか。何日何人分か。各集落の人口に対して最低1週間程度の備蓄はしておくべきではないか。能登半島地震の教訓で、船が出せない、隆起や津波により港が壊れて着岸出来ないことや災害ヘリが離着陸出来る場所がなくなる可能性もあります。ハザードマップや防災リュックなどを自動車に常備しておき、有事の際に車で逃げる。その際は、スマートフォンはできるだけ持って逃げられるようにすることが必要だと考えます。官民連携の防災減災対策の進捗状況はいかがでしょうか。

上越市のように原則として、高齢者など要支援者等と共に避難する場合に限り、車で避難するという事も推奨する必要があると考えますが、佐渡市の見解をお尋ねします。

復旧時期、支援策についてお尋ねします。公共施設について、道路や体育館など、完全復旧はいつ頃を見込んでいるのでしょうか。予算については国から特別交付税を手厚く措置してもらおう必要があると考えますがいかがでしょうか。

民間施設について、宿泊施設、飲食店やホームセンターなど見て回りましたが、ダメージが大きいところもあります。それらの復旧に向けた支援策はどうするつもりなのでしょうか。

寺社仏閣について、見て回ると大きな石灯籠などが倒れてしまっております。復旧に向けて、佐渡文化財団によるクラウドファンディングや市に対して指定寄付金を募り、寺社仏閣の修繕にあてることなど、政教分離の原則も加味しながら知恵は出せないものでしょうか。

指定緊急避難場所、避難所については、市民としても混同されている方が少ない状況であると感じています。また、ハザードマップの確認、佐渡市公式ラインへの登録など、有事の際に備えた準備が不足していると言わざるを得ない状況にあると考えます。ジオパークの研修をハザードマップ持参で現地を見ながら行うという事は有効な手法の一つと考えますがいかがでしょうか。

サドテレビや佐渡市ケーブルテレビでは、1月1日17:30頃に避難場所の情報が放映されておりました。しかし、スマートフォンで確認できるWEB情報が出たのは22:30以降であり、5時間以上ものタイムラグがありました。屋外に避難していてスマートフォンを持っている状況を想定すればこそ、テレビの情報発信と併せてホームページでの速やかな更新をするべきではなかったのではありませんか。今後の改善を促します。

耐震工事化の促進補助制度、耐震シェルター購入補助金の創設についてお尋ねします。佐渡市においては耐震化率69%程度と認識しておりますが、同様の被害状況になることがないように、耐震工事化の促進や防災シェルター・防災ベッド購入補助制度の創設をするべきではありませんか。

② アウトドア防災の普及啓発についてお尋ねします。能登半島地震の際は、佐渡市内でも27か所の避難場所等に約3,000人が避難しました。「想定外を想定せよ」という教訓を肝に命じる必要があります。そこで行政としては、アウトドア防災の啓発活動を推進する必要があると思います。アウトドア防災とは、アウトドアから学ぶ防災術のことであり、アウトドアの知識を活かす暮らしの中の防災意識向上のことです。広報やイベントなどによりアウトドア防災を推進すべきと考えますが、答弁を求めます。

宝くじコミュニティ助成事業等を活用した自主防災組織等との連携による必要器具の購入促進をするべきではないかということについてお尋ねします。テントや寝袋、マットレス、カセットコンロ、ポータブル電源など、上記のアウトドア防災に必要な器具を積極的に購入する機運を高めるべきではないでしょうか。一般財団法人自治総合センターによる「コミュニティ助成事業」の防災部門も活用するのが最良だと思います。また、佐渡市の総合防災訓練などでも防災グッズの展示・販売をするなどアウトドア防災も含めたさらなる啓発活動が必要だと考えます。このことについて、市長の答弁を求めます。

③ ライドシェア×持続可能な文化観光地域づくりについてお尋ねします。今後、NPO等の法人による運営を市としても応援し、交通空白地域の7地区においてもコミュニティバスやライドシェアを推進することと理解しております。加えて、22の小学校区単位を原則とする持続可能な佐渡づくりを推進するために、宿泊、飲食、ムラ歩き、お土産を製造・販売する活動など、文化観光地域づくりに寄与する組織体の設立を後押しするべきと考えます。そのために、地域おこし協力隊を招聘し、離島留学の推進や空き家利活用、働くところ・住むところの準備など、地域づくりのサポート体制構築が必要であると考えますが、市長の見解を伺います。

(2) 観光振興【残り15分30秒】

① 「佐渡島（さど）の金山」の世界文化遺産登録を好機とした観光振興の推進についてお尋ねします。最後にやるべきことを何と認識しておりますか。また登録後は、佐渡市世界遺産推進課や佐渡を世界遺産にする会はどのような予定でしょうか。両組織をより強固にすることで、世界遺産の本来の趣旨である「不動産の保全」を推進し、シビックプライドの醸成により次の世代につなげていくために「活用」することが必要不可欠です。相川鶴子金銀山、西三川砂金山とともに道路や駐車場整備とパークアンドライドの仕組みづくりも必要であると考えます。

佐渡市民や観光のお客様による佐渡金銀山の魅力の再発見、知識の共有、郷土愛醸成の一日として、お客様感謝デーを決行することにより、コロナ後の島内外の佐渡ファンを増やすことができると確信しております。よって、新潟県等とも連携しながら新潟県民の誇りとなる世界文化遺産登録の記念日を県条例として制定できるよう尽力すべきと考えます。去る2月28日には中川隆一県議の新潟県議会一般質問の中でも「和歌山県世界遺産条例」の事例を引き合いに条例制定に関する質問が上がっております。花角知事としても、佐渡市長と再度パリを訪問し、ユネスコ本部などを訪れる予定である。国と佐渡市と緊密な連携を行い、イコモス勧告後は必要な対応を進めて行く。登録後は、県民の世界遺産の価値共有、意識醸成の方策の一つとして、記念日の条例制定も含め関係者と広く議論をしていくとの答弁がありました。市としても前向きに検討すべきではありませんか。

② さどまる倶楽部10万人、関係人口100万人達成に向けた進捗状況はいかがでしょうか。観光客数についてコロナ後のV字回復を目指すべく継続した努力が必要と考えます。スマートフォンの「さどまる倶楽部」アプリと運用が終了した「だっちゃコイン」の後継となる地域通貨の活用が期待されます。これらのことについてのロードマップをお示してください。

③ 陸・海・空の交通インフラ整備についてお尋ねします。島内二次交通について、この4月から生活交通については新潟交通佐渡と佐渡市が連携し、それぞれ有償・無償運送で役割分担が進んでいくものと理解しております。前向きに捉えれば、佐渡市としては新潟交通佐渡への赤字補填額を軽減させることができ、市民は交通空白地の移動を佐渡市直営のコミュニティバスを無償で利用することができるということになります。佐渡市の財政の観点からも負担額が圧縮できるものと考えますがいかがでしょうか。

佐渡汽船についてお尋ねします。冬季期間の朝一・朝二両津発ジェットfoil運賃が、カーフェリー2等料金となる限定プランは、市民や介護帰省利用者などの方から大変喜ばれている取組みです。佐渡汽船として毎年継続すべきと考えますが、佐渡市としての見解を伺います。また、尾渡社長からは需要見込みは未定ですが、供給体制は150万人需要に戻っても対応できる準備をしている状況ですとのお言葉をいただきました。佐渡市としては世界文化遺産登録を好機とした観光振興推進の観点からも佐渡汽船と連携を強化する必要があると考えます。佐渡汽船の経営再建についてどう関わっていくつもりなのか、佐渡市の見解をお聞かせください。

トキエアについてお尋ねします。佐渡⇄新潟便は有人国境離島の運賃低廉化が適用されるものと理解しておりますが、佐渡⇄首都圏便については生活圏内ではないので、適用外となるのでしょうか。佐渡市民、新潟県民は首都圏への来訪は少なくないことから、適用されるように国に対して要望をすべきと考えますが、市長の答弁を求めます。また、ICTを活用したヒトモノカネの物流戦略を持ち、島内二次交通の整備や地産外商の物流などについて推進する必要があると考えますがいかがでしょうか。

④ 旅館業法による宿泊に加えた民泊新法による民泊の推進についてお尋ねします。多様化する宿泊ニーズにも応えるべく、旅館業法による宿泊事業を展開する事業者も予約でいっぱいとなる5月と8月などを補填する民泊新法による民泊や寺社仏閣など関連施設での宿泊体験の推進が必要だと考えます。そこで、佐渡観光交流機構と連携し、佐渡市民泊宿坊協議会（仮称）を設立し、比較的安価で中長期滞在を可能とする民泊や宿坊体験ができる仕組みづくりに努めるべきと考えます。特設のウェブサイトでの情報発信強化や、空き家利活用による民泊の2号案件、3号案件へとつなげる横展開を促進するなど世界遺産登録後の取組みの一つとしても推進すべきと考えますが、佐渡市の見解を伺います。

(3) 産業振興【残り10分30秒】

① 農林水産業を活かした経済の活性化についてお尋ねします。有機農業及びスマート農林水産業の推進が必要と考えます。今後は、コシヒカリの中でも高温耐性を持つ特異種の導入や田植えから稲刈りまで時期を後ろ倒しするなどの方策が必要不可欠になるかもしれません。また、カーボンクレジットについては、トキクレジットや中干し延長によるメタンガス排出抑制モデルのカーボンクレジットの取組みも民間では始まりつつある状況にありますので、行政としても研究する必要があると考えます。まずは、佐渡産の食材をふんだんに使用したオーガニック学校給食を提供することを推進すべきです。そして、需要を一般販売へとつなげて、販路確保と生産拡大を強化させていく方向性が大切だと考えますが、いかがでしょうか。

② 1次・2次・3次産業の高付加価値化についてお尋ねします。世界遺産登録を好機として、ブランド化・高付加価値化を推進すべきです。例えば、1杯1,000円のラーメンであっても極寒の海辺をガイドしていただき、波の花を眺める。その後、薪ストーブの暖かい古民家の中でラーメンを食べるシチュエーションを整えれば、体験料として1万円とすることも実現可能だと思います。インバウンド観光客のニーズにも応えられるストーリー性を大切にしたツアープランの醸成も含めて、観光産業をモデルケースとしながら、1次・2次・3次産業の高付加価値化が必要と考えますが、答弁を求めます。

③ ドローン、AIなどを活用したソサイエティ5.0及びDXの推進についてお尋ねします。実証実験として、あいぼーと佐渡から新潟市まで、南蛮エビなどをドローンで運ぶ実証実験を行っておるところであると理解しております。農林水産業×ドローン、AIの連携の具体例については、林業の森林台帳業務においてドローンで撮影した画像をAIで解析して面積、樹種、樹齢などのデータを把握、台帳更新の作業が格段にスピードアップできるとともに、森林資源量をより正確に把握できるため、バイオマス発電に活用する間伐材の安定供給などにもつながります。漁業に関しては、漁師の経験や勘に頼るところが大きい現状ですが、潮流や水中画像など海洋データと気象データ、漁獲データなどをAI解析し、飲食店等と連携した産地直送の仕組みづくりが構築され始めているところです。

例えば、佐渡市や佐渡自動車学校等と連携して、ドローンスクールを立ち上げ操縦者の育成を行う。近隣の旧金井吉井小学校グラウンド等を演習地として活用、風光明媚な佐渡をドローンによる撮影実習を行い、映像のアーカイブ化、プロモーションビデオへの活用などドローンを佐渡において推進するメリットは多いと感じますが、佐渡市の見解を伺います。

④ 佐渡自動車学校の合宿免許制度導入による滞在型文化観光の推進についてお尋ねします。現状、佐渡自動車学校では、合宿免許制度を導入しておりません。そこで、佐渡市としても合宿免許制度導入の実現に積極的に取り組み、一定の補助制度を構築することが必要と考えます。島外の若者が最低でも2～3週間佐渡に滞在することで佐渡の食や地域の魅力を堪能したり、卒業旅行でお友達と戻ってきてもらったり、親御さんを連れて家族旅行をしていただいたりとしてリピーター獲得にも繋がることと思います。また、島内の集落における祭りの練習期間中に合宿免許取得のために佐渡に滞在していただければ、日中は自動車教習、夜間は祭りの練習参加と若者にとって一挙両得の滞在型文化観光となることが期待されます。これらの取組みを推進するべきと考えますが、佐渡市の見解を伺います。

(4) 環境保全【残り6分30秒】

① SDGs 未来都市、地域循環共生圏、脱炭素先行地域の推進についてお尋ねします。SDGsの推進については、条例も制定され、さらなる認知度向上が求められますが、市民に対しても市職員に対しても本当の意味での行動変容についてその戦略を伺います。消費者協会と連携して、段ボールコンポストなどの取組みが進んでいくものと理解しますが、岡山県真庭市のように汚泥の堆肥化や生ごみ分別収集や、離島の課題である漂着ゴミの持続可能な回収体制構築などを推進すべきと考えます。佐渡市総合計画を今一度確認し、職員一人ひとりに業務とのかけあわせを考えるべきではないでしょうか。

また、レアメタルを必要としない次世代型のペロブスカイト太陽電池の一般販売も次年度スタートすると理解しておりますが、脱炭素及び自然エネルギーの島構想の推進についてどのように考えているのか佐渡市の見解を伺います。

② 生物多様性保全による環境に優しい佐渡づくりについてお尋ねします。昨年11月、あいぽーと佐渡において開催された、「トキと共生する佐渡の里山」から始まる新・生物多様性農業シンポジウムに参加させていただきました。トキをシンボルとした生物多様性保全×脱炭素の取組みを強化するべきと考えますが、市長の答弁を求めます。

(5) 生涯活躍【残り5分】

① 子どもの教育、子育て支援、大人の生涯学習についてお尋ねします。少子化が進む中、勉強や部活動などにおける学びの機会を維持する努力は欠かすことができないものと認識しております。教育の島づくりにおいて、学力の向上は必要不可欠であり、児童・生徒の好奇心を刺激することが重要です。そのためには、キャリア教育やマイプロジェクト、自由研究発表会、サイエンスプロジェクトなどの教育イベントから学習意欲の向上、やる気スイッチを入れる努力が必要ではないでしょうか。また、佐渡株式会社や英語での観光ガイドのような楽しみながら、身になる教育をさらに推進する必要があるのではないかと考えます。教育長の答弁を求めます。

子育て支援については、子ども・若者が安心して成長できるための制度が整備されてきており、今後は多子世帯やUターン者増加による地域の活性化が期待されているところです。佐和田エリアが子育て支援のモデル地域ということは理解しますが、他の地域ではどのような展開を考えておりますでしょうか。また、子ども食堂についても、10地域における開催実現を行政としてサポートしたり、島外の子ども食堂へ佐渡産食材を提供するなど、子どもの食環境を改善する努力も必要と考えますが、いかがでしょうか。

大人の生涯学習についてお尋ねします。生涯学習の推進は健康寿命延伸策との連携や多世代交流の促進が必要であると考えます。CCRC（生涯活躍のまちづくり）とは、高齢者が健康な段階で入居し、終の棲家として暮らすことができる生活共同体のことを言います。生涯学習で学んだり、あるいは教えたり、地域のガイドとして活動したり生きがいを持ちながら、健康で文化的な生活を送っていただくイメージです。これらを、空き家及び廃校舎、廃ホテルを活用して事業実施することを期待しますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

② 空き家利活用等による生きがいの創出についてお尋ねします。例えば、空き家を活用した新穂湯上の「子ども未来舎りぜむ」のように子どもたちの第三の居場所づくり、運営スタッフも含めた多世代交流が生まれるような取組みを増やしていくべきと考えますがいかがでしょうか。

③ 健康寿命日本一への進捗状況についてお尋ねします。健康寿命延伸のためには、運動・食事・交流について日常的に取り組む必要があると言われます。そのため、介護予防教室等においても一緒に運動して良い汗をかいたり、体に良い食事をつくって会話しながら楽しむということが効果を上げる秘訣と考えます。そのような取組みを推進し、参加者を増やす努力が必要ですが、いかがでしょうか。

④ 医療・介護・福祉の充実についてお尋ねします。大きな離島で移動距離の長い佐渡でこそ、ICT技術を活用したりリモート診療、AI診療等はすぐにでも必要とされる重要な取組みです。また、最先端の技術を取り入れることによるエッセンシャルワーカーの負担軽減、人材不足の問題に対応するような人材獲得や課題解決特区

なども活用しながら、進めるべきではないかと考えます。医療・介護・福祉においては、充実及び連携の拡大と強化が大切と考えますが、見解をお聞かせください。

(6) 総合政策【残り1分30秒】

① 拉致問題の早期解決に向けて市民一人ひとりができることについてお尋ねします。先般、同僚議員一同で議論した結果、改選後に佐渡市議会拉致問題早期解決促進議員連盟（仮称）を立ち上げ、議会人として早期解決に向けてできることを精一杯がんばろうということで意見一致したところです。南佐渡中学校での蓮池薫さんのお話をお聞きさせていただきましたが、署名活動やブルーリボンバッジを付けること、募金活動など、自分たち一人ひとりができることをやり、メディアを通して拉致問題を忘れていないぞと北朝鮮にプレッシャーをかけることが大切だと仰っておりまして。市長としても曾我ひとみさんと一緒に岸田総理に面会されたり、柏崎市、小浜市と3市での要望活動を行うなど、精力的な活動が見受けられますが、佐渡市議会へ期待すること等について答弁を求めます。

~~~~~

【残り30秒】

突然ですが、最後になぞかけを一つ。

感謝の気持ちで整いました〜◎

「佐渡島（さど）の金山」とかけまして、善良なる佐渡市民と解きます。

その心は・・・

いつまでもキラキラ◆と輝き続けるでしょう◎

改めまして、「佐渡島（さど）の金山」の世界文化遺産登録の実現を切に願いますと共に、20周年を迎えた佐渡市に住む市民の皆様の益々のご繁栄とご発展を心よりお祈り申し上げます。引き続き、一丸となり、がんばって参りましょう！

~~~~~

以上で、政風会の代表質問を終了します。
ご清聴ありがとうございました。